

## 彙 報

### 第 34 回大会

5 月 19 日仙台市において開催, 午前 10 時より東北大学電気通信研究所永井健三教授研究室を見学, 午後 1 時より宮城学院女子大学講堂において次の講演があった。

ことばの生い立ち	小林 淳男氏
言語の構造とその変化	高津 春繁氏
アイヌ語の本州方言について	金田一京助氏

### 東北地区研究発表会

仙台市において上記大会が開催されたのを機に, 5 月 20 日東北地区研究発表会を宮城学院女子大学会議室において開催, 別項研究発表のほか, 東北大学佐藤利三郎氏の「音声の分析と合成」と題する講演があった。

### 第 10 回九学会連合大会

5 月 12 日, 13 日の両日上野公園国立博物館大講堂において開催された。本会よりの発表者は,

共同課題「成長—幼少年期」・児童における言語発達	杉井鈴子氏
共同課題「奄美大島」・奄美大島方言の一考察	上村幸雄氏

### 東京例会

29 回, 4 月 14 日, 都立大学, 「言語と論理」	大森荘蔵氏
30 回, 6 月 9 日, 早稲田大学, 「言語に対する一つの見方」	渡辺 修氏
31 回, 7 月 7 日, 学習院大学, 「国語の表記」	W. A. グロータース氏

### 評議員会・委員会

5 月 19 日, 第 34 回大会講演会終了後評議員会・委員会を開催。

1. 文哲史連合編集研究論文抄録誌第 8 巻に本会よりは論文を推薦しない。
2. 本年 12 月 10 日に行われる日本学術会議第 4 期会員選挙に本会よりは候補者を推薦しない。

4 月 2 日, 東京大学において刊行委員会を開催, 「言語研究」の投稿規定を別掲のように定めた。

◇秋の第 35 回大会は 11 月 18 日 (或いは 17 日, 18 日両日), 東京大学において研究発表会形式により行う。

\* \* \*

昭和年30度会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	-8,886.44	印刷費	179,000.00
会費(振替)	109,977.00	発送費	10,333.00
”(現金)	68,048.00	大会講演会費	20,410.00
雑誌売上	25,778.00	編集費	32,350.00
補助金	70,000.00	事務用品費	2,396.00
寄附金	1,500.00	通信費	20,369.00
利息	1,192.00	九学会費	3,000.00
		文哲史連合費	3,000.00
		雑費	7,353.00
合 計	267,608.56	合 計	278,211.00
		差 引 残 高	-10,602.00*

(\* 円以下は切捨)

---

号	頁	行	[訂 正]	正
28	4	23	誤 個人	正 個人
〃	8	2~3	交互用	交互作用
〃	8	4	a60	ε <sub>1</sub>
29	45	24	Geoge Beer	Georg Beer
〃	表紙 2	7	George Beer	Georg Beer
〃	表紙 4	5	MAEDA Goro	MAYEDA Goro